

# 周産期領域の看護者を対象としたDV被害者支援に関するE-learningの開発と評価：ランダム化比較試験

著者	丸山 菜穂子
学位名	博士（看護学）
学位授与機関	聖路加国際大学
学位授与年度	2020
学位授与番号	32633甲第195号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10285/00016462">http://hdl.handle.net/10285/00016462</a>



氏 名：丸山 菜穂子  
学位の種類：博士（看護学）  
学位記番号：甲第195号  
学位授与年月日：2020年9月15日  
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当  
論文審査委員：主査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）  
副査 堀内 成子（聖路加国際大学教授）  
副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学准教授）  
副査 加納 尚美（茨城県立医療大学教授）

論文題目：周産期領域の看護者を対象としたDV被害者支援に関する  
E-learningの開発と評価：ランダム化比較試験

#### 博士論文審査結果

ドメスティック・バイオレンス（DV）は、母子の健康に深刻な影響を及ぼす重大な問題であるが、看護職への教育は十分ではなく、適切な支援が行われていない。本研究は、周産期医療に関わる看護職に対し、DVに関するe-learning教育教材を開発し、ランダム化比較試験にてその有効性を検証することを目的とした。e-learningは、理論編、実践事例編の8チャプターに加え、セルフケアのセッションを含め約3時間で構成された。RCTでは、研究参加者をe-learningを受講する介入群（45名）と受講しない対照群（43名）に割りつけた。その結果、e-learning受講前から直後において、介入群の知識得点は平均7.7点上昇し、対照群の1.4点と有意差を認めた。さらに、介入群において介入直後と介入1カ月後の平均得点に統計学的に有意な減少は認められなかった。本研究で開発されたe-learningは、DVに関する知識の向上と1か月後までの維持、支援へ向けた準備・強化に関する個人的行動を促す効果があったと結論づけられた。

本研究で開発されたe-learningは、DV、スクリーニングと被害者支援、支援者のセルフケアとDVに関する教育内容が網羅的に組み込まれており、かつわかりやすく具体的に興味を引く構成であった。教育教材として、熟考の上作成されており、非常に質が高いと評価された。そして有効性の評価を目的としたRCTにて、プライマリアウトカムである知識の習得に効果的であったことが検証され、医療者へのDVの教育及びe-learningに関するエビデンスの構築に貢献した。分析は、ITT解析以外にも、Per protocol解析等複数の分析方法を用いて、丁寧に行われており、精密な結果の記述を行った。また、RCTによる評価だけではなく、プロセス評価も行うことで、e-learningの

改善に向けての豊かな示唆を得ることもできた。

審査における指摘点は以下のとおりである。

1. 序論に、教育方法として **e-learning** を選択した理由を述べること。また、これまでのエビデンスとして、多職種を対象としたプログラムの有効性が報告されているのに、なぜ看護職のみを対象としたのかについての背景も追記すること。また、看護職のケアの特徴と DV 支援を関連付けて記述すること。

2. 文献検討において、年代や実施の国など順序だてて記述する。

3. 研究のフローにおける人数の推移がわかりにくいことが指摘された。ITT 解析と Pre protocol 解析で、フロー図を分けて示すことが提案された。

4. 分析方法にて、欠損値の代入方法を検討すること。

5. セカンダリアウトカムである DV 被害者支援に向けた準備・強化行動の実行について、介入群の post2 時点にて最高でも 48.9% であり、多くの行動が 30% よりも低かった。このように低い実行割合を、項目ごとの 2 群比較のみならず、探索的に分析ができるとよい。

6. 「DV スクリーニングの実行割合」「DV 被害が疑われる妊産婦への支援の実行割合」は、2 群比較の前に、介入群において介入後に実行割合が減少している、または変わらないという結果になっている。この点に関して、結果に記述を加えること。

7. 考察に、「DV スクリーニングの実行割合」「DV 被害が疑われる妊産婦への支援の実行割合」が増加しなかった理由を述べること。

以上の指摘点について、再検討され、適切な加筆・修正ができたことをすべての審査員が確認した。以上より、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定された。